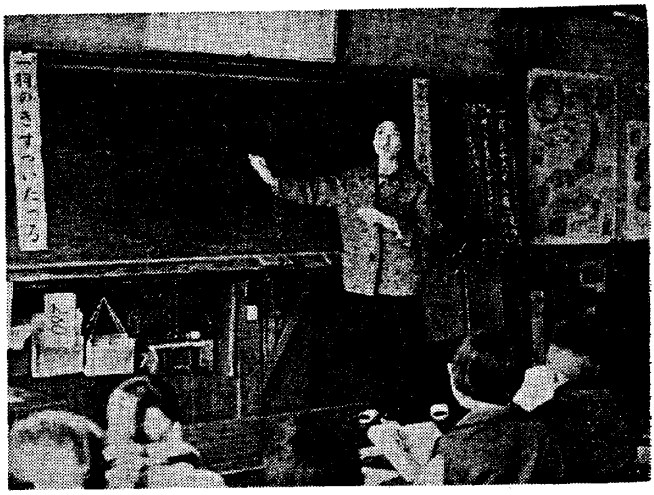
物語文の読解指導について

足利市立東小学校　岡本まさ子

はじめに

物語文の読解指導では、子どもたちにふつくらとした夢の世界を味わわせることを第一とすべきで、物語への批判等に対して特意図的に指導すべきではないなどといわれている。しかしわたしは、作品にふれさせることによつて、心情を豊かにさせることは勿論であるが、さらに自分のすがたを見つめ、とらえさせていくところにより大切さがあるのではないかと思う。

この指導の方法としては、文章と主題との関連において扱い、その作品をいつも読み手である自分と結びつけて扱うといういわゆるテーマ性・問題性が大切であると考える。そこで物語文「つる」— 学図5年下 — の指導に当つても特にその点について留意して実践したつもりである。



指導の実際

(1) 指導にあたつて

① 題　材　つる

② 題 材 観

この物語はつるの世界における美しい友情をえがいたものであり、その表現も実に美しい。本

教材を学習させることによつて、ことばに対する感覚を鋭敏にさせ、ことばの持つ特殊な味を味わわせると共に、つるの飛翔の美しさ、友情の美しさ、作者の感激した態度等について読みとらせる。特にヒロイズム讃仰の時期にあるこのころの児童にとつて、この物語に共感させることは心理的にも当を得ていると考える。

③ 目　　標

- 読みとつたことや感想をもとにして話し合い、特に共感した箇所については意見をまとめ、自身の考え方を深めていくことができるようにさせる。
- つるの世界における美しい友情を文の表現に即して読みとらせる。
- 文章表現のたくみさを理解させる。

④ 指導計画　　総時数 13時間

a　つ　る……　11時間

- 文章を通読し、つるについての知識を整理する …… 2時
- 物語のすじをつかみ感想を話し合う …… 3時
- 表現を追つて主題を読みとる …… 3時（本時 $\frac{1}{3}$）
- 表現の適切さを理解する …… 1時
- 読後の感想文をかく …… 2時

b　読書指導……2時間

- 読書計画を立て、読書したい本を選択する …… 1時
- 読んだ本について紹介する文を書く …… 1時

(2)　「つる」学習指導例 ― 1時限の展開例―

① 目　　標　　表現を追つてつるの友情を読みとらせる。

② 学習活動

過程	目　標	学習活動	指導形態	指導上の留意点	評　価
導入	1.つるとたかとのはげしい戦いを中心にしらべることを認識させる	1.前時の話し合い ・この時間中学習する文の中からどんな問題についてしらべたらよいか話し合う ・問題をしらべていく方法について話し合う 2.本時の学習目標について話し合う	・全体話し合い ・全体話し合い	1.各自の持っている問題意識をある程度学級全体の問題にしぼつて学習の目標を話し合いによつて決定させる 2.たかの動き、たかにおそわれたつるの動きについて調べていけばよいことに気づかせる	・学習目標がはつきりとらえられたか
展開	2.つるの友情について読みとらせる	3.しらべ読みをする ・目的にそつて自由に黙読をする ・目的を解決するために必要な部分を精読する	・個人読み ・個人読み書く	3.目標を解決するための方法を理解してかからせる	・内容を考えながら読むことができたか ・つるの友情について読みとれたか

	3.読みとつたことを発表し、それについて考えさせる	・たかの動き、たかにおそわれたつるの動きについてしらべたことを発表し合う ・表現の部分をたしかめる ・さしえについて話し合う		4.表現に即して調べさせることが大切であると思うそうでないと「思いつき」や「その場限り」の空虚な学習が展開され易い 5.自分と結びつけて考えさせる　そして自分のすがたなり考えなりをはつきりととらえさせる	
整理及び発展	4.情感のある読みをさせる	4.本時に学習したところを朗読する ・指名読み 5.次時の予告	・個人読み	6.句読点にあまりこだわらずに読んでもよいことを理解させる 7.常に学習意欲を高めるようにさせる	・友だちの朗読を味わいながら聞けるか

6) 指導の実践記録

「つるの友情について表現を通して読みとらせ、感想や批評を持つようにさせる」

① この物語を通読し、つるについての知識を整理したのちあらすじをつかませ、さらに読んでどう考えどう感じたかについて話し合つた。その結果は次のようになつた。

a　物語の主題にふれているもの　(31)

- きずついたつるを二羽のつるが助けたことはえらい。
- きずついたつるが助けられてもとの列に帰つてくるまで、ほかのつるたちが待つていたことは思いやりがある。
- 友だちが困つている時つるのように助けるだろうか。
- つるは心のやさしい鳥だ…など

b　部分的なものにとらわれて、主題に距離があるもの　(21)

- 「たか」はにくらしい鳥だ。
- 「つる」は美しい鳥だ…など

以上のようなものであつた。この結果からみて児童の半数以上が主題読みの姿勢があり、この物語の本質に対して、興味と読みの問題意識を持つていることがわかつた。さらに他の児童も話し合いを通して、主題の方向へ眼を向けるようになつた。

このような学習を通して、表現を追つての主題読みにはいつたわけである。

② 指導のようす

教　きのうは「つる」のあらすじについて勉強しましたね。この中でみんなが一番大切だと思つたところはどこだつたでしよう。(常に物語の全体性を重んじる)

児　つるとたかとのはげしい戦いのところときずついた一羽のつるの所です。

教　そうでしたね。きようはその中のつるとたかとのはげしい戦いを中心にしらべていくわけでしたね。これを調べていくのにどんな点に注意したらよいでしよう(問題意識をもつて学習にあたらせる)

(児)つるの鳴き声に気をつける。

つるの飛び方に注意する。

たかがどんなふうに飛んだか注意すればよい。

(教)それらをまとめるとどういうことになるでしょう。(まとめて聞き、発表できるようにさせる)

(児)たかはどんなふうにおそつたか。

たかにおそわれたつるは、どうしてふせいだか。について調べていけばよいと思います。

(教)そうですね。その二つの点を注意しながら調べていきましょう。

(・学習目標を板書し、意識を持つて調べ読みにはいらせる
・黙読をさせ気のついた所は鉛筆で線をひかせる　余裕のある児童にはノートに書くように指導する)

(教)たかはどんなふうにおそつたのでしょう。(大体の児童が手をあげた)

(児)ひらりとからだをかえすがはやいかびゆうんと一文字に、するどく飛びこんで行きました。

(教)それは本のどこに書いてありますか。(・指名読　・板書する(語句)　・ことばをしつかり把握させる)

(教)こうしたことから、たかという鳥はどういう鳥だということがわかりますか。

(児)動作のはやいたくましい鳥だということがわかります。

(教)たくましいたかに対してつるはどんな鳥でしよう。(比較して、つるの弱さを意識させる)

(児)弱い鳥です。

(教)それは、本のどこでわかりますか。

(児)たかにおそわれた時おびえきつた声で鳴きました。

(教)そうですね。ひらりとからだをかえすとか、びゆんと一文字に空をすべつてということはどんな時使うでしよう。(・文章に即して語句を理解させる　・語感を身につけさせる)

(児)ひらりとからだをかえすは、つばめの飛んでいるような時につかいます。びゆうんと一文字に空をすべつては、野球のボールが空を飛ぶような時にいいます。

(教)そうしたいさましいたかにおそわれた「つる」はどうしたでしよう。

(児)一羽のなかまのつるがつかまつてしまいました。

(教)弱いつるはどうしたでしようね。

(児)・いく十羽とも数えきれないつるの群れが、ひとかたまりにかたまつて、しにものぐるいで飛びかかりました。

・ものぐるわしく鳴きたてました。

(教)他の人はどうでしよう。(ひとりの児童の発表だけでなく、多くの児童に考えさせる)

(児)しにものぐるいで飛びかかつたのでよいです。

(教)それは本のどこに書いてありますか。(・指名読をさせ、全体に読ませた　・ひとかたまり、しにものぐるいと板書する)

(教)つるはなぜひとかたまりにかたまつて、しにものぐるいで飛びかかつていつたのでしよう。(その原因について発問する。こゝが大切である。なかまのつるへの友情からでた行動であることを感得させる)

(児)・つるは弱いからです。

・たかにつかまつたつるを助けるためです。

(教)そう。他の人はどうでしよう。(大部分の児童が同感であつた)

教 しにものぐるいに飛びかかるというのはどんなことでしょう。（語句をしらべると共に主題にせまる）

児 夢中で飛びかかることです。あるいはなんにも考えないことです。

教 しにものぐるいになつたことがありますか。(辞書的な言いかえでなく、理解させるために十分話し合わせる)

児 犬に追いかけられた時などなりました。

教 そうね、そんな時になりますね。それはつるが弱いからだけでしようか。

児 なかまのつるを助けたいという気持からだと思います。

教 今の考え方についてどうでしよう。

児 つるが弱いというだけだとしたら、たかに飛びかかつていかないと思います。やつぱりなかまのつるを助けたいという気持の方が強いと思います。

児 たかがでてきたことで、おびえきつて鳴いていたつるが、なかまのつるをつかんで落ちていくたかを追つてまつさかさまにおりていくわけがないからです。

教 よいところに気がつきましたね。先生もみんなと同じ気持です。その結果たかはどうしましたか。(文章に即して考えさせる)

児 いかにたくましいたかでも、こうまでたくさんのつるにあつてはどうすることもできないで逃げていきました。

教 そこの所を読んでごらんなさい。

教 そうね。けつきよくたかはつるの何に負けたのでしよう。(しばらく考えていた)

児 ・なかまのつるを思う気持に負けたのだと思います。

・つるがひとかたまりにぶつかつたから負けたのだと思います。

教 なるほど、よいところに気がつきましたね。

児 でも先生、ひとかたまりになつたということは、なかまを助けるためになつたのですから、やつぱり友情がもとになつていると思います。

教 今の発表で、よいことばがでてきましたね。何んでしよう。（意識的に友情ということばに結びつけなくてもよい、感得させるようにさせたい。）

児 友情です。

教 友情ということばが前にもでてきたことがありましたね。「線路の友情」で勉強しましたね。友情ということは、ただ友だちがすきだということだけではなく時には……

児 しにものぐるいで、友だちのためにつくすこともあります。

教 友情ということばの深さですね。

児 先生、たかはつるの友情に負けたわけです。それからつるの団結や協力にも負けたのです。

教 ほう。友情はわかつたけれど、団結や協力に負けたというのはどうでしよう。

児 いく十羽ともなく、ひとかたまりにかたまつてという所で協力しているということがわかります。

教 ひとかたまりということばの意味を深く考えると、つるの協力ということばが生まれてくるわけですね。とつてもよく考えていてよろしい。

教 それでは、さし絵をみましよう。どうしているところの絵でしよう。（視覚を通して、今ま

で理解したことを感覚的にわからせる）

(児)つるがたかにおそいかかつているところです。

(教)もう少しくわしく説明してごらん。

(児)なかまのつるがたかにつかまつてしまつたので、ひとかたまりになつてたかにぶつかつてい

るところです。

(教)そうですね。たかの足を見てごらん。みんながこのつかまえられたつるだつたらどうでしょ

う。（もし私だつたら――。と自己と結びつけて考えさせる）（「やだ」などというささやき

があちこちからきこえた）

(教)つかまえられたつるはどうなるでしょう。

(児)・一生の終りだと思います。

・なんとかして逃げたいと思います。

・気絶してしまうと思います。

(教)そんな時、なかまのつるたちによつて助かつたとしたらどう感じます。

(児)本当にありがたいと思います。自分もみんなのためになりたいと思います。

(教)さあ、それではきよう勉強したところをよく味わつてみましよう。（・情感のある読み方をさ

せる。特に文章を途中できらないでひとりに読ませる。・聞く方はよく味わいながら聞く）

(教)あしたは、きずついた一羽のつるを中心に勉強しましよう。そして友情についてさらに深く

味わつて行きましよう。

3. おわりに

(1) 物語文指導にあたつて、心情を豊かにさせると共に、問題意識を持ち、主体的にしかも批判的に読む態度をつけさせるべく、ひとりひとりの読みとり、感じ方について指導した。

(2) 文章を通して主題を感得させることに力をおいたのだが、あまりにも文の細部にくいつきすぎたことと、やゝ概念的な流れになつてしまつた箇所があつたように思う。

(3) 教師の発問や、答のとりあげ方は、学習を成功させる上に重要なものであると感じた。そのためには、しつかりとした教材研究の上に学習が展開されねばならないと痛感した。

(4) 物語文は主題にライトをあてながらあつかうべきであつて、文章をいわゆるたてわりにしたりして、こまぎれ的に扱うべきでないことはわかる。しかしこのつるの物語には主題の山が二つあつて、計画を立てるのに苦心した。その結果指導の原則は意識していたが、

① つるとたかとのはげしい戦い

② きずついた一羽のつるへの愛情

と二つに切つて扱つた。そうした方法について問題が残るように思う。

(5) 物語文の指導では、主題を読みとらせることが最初であり最後であるといわれる。児童の感想を手がかりとして読解にはいることは力のつかない原因であるなどといわれている。しかし現実の問題として、主題をとらえることのできない児童の扱いについてどう指導の手をさしのべていつたらよいのか。

以上が、わたしのささやかな実践を通しての反省点と今後に残された問題であります。諸先生方の御指導をお願いいたします。

講　　評

西中　大滝徳海

語文の読解指導」については、現場では方法上まだじゆうぶん解決されない多くの問題を持つのではないかと思われます。物語文は代表的な文学教材としてかなり高度の内容を持っている少なくなく、しかも長文であるというところに取り扱い上、二重の難点をかかえているものであ。

先生が今度、そういう問題の多い教材の読解の指導に真剣にとり組んで、その研究成果を発表ことについては深い敬意を持つものであります。

先生はその実践記録の「はじめに」の中で、物語文指導の方法としての「テーマ性」と「問題つい強調されていますが、それは極めて適当でありましよう。

に物語文指導の上で最も重要なものは「テーマ性」すなわち、いつもテーマとの関連において扱うことでありましよう。物語文の指導は「主題から始めて主題に終わる。」とよくいわれますが、はそういう重要性を説明しているものと思われます。

同時に、いつも読み手である自分と結びつけて味わっていくという、いわゆる「問題性」も、深とるため、心情を豊かに養うために、忘れてはならないことでありましよう。そしてそれはま本先生のいわれている主体的な読み方、あるいは批判的な読み方に発展するものでありましよう。いう意味から言つて岡本先生の実践は極めて適切に行なわれております。特に文に即して論理的確に指導を進めておられる点など、まことにみごとであります。

らに児童の鑑賞活動、考える活動など、まことに気持よく発現しており、日ごろの指導の立派な見せております。

し、ただ岡本先生も「おわりに」の(4)で述べておられるように「文章をいわゆるたてわりにしして、こまぎれに扱うべきでないことはわかる。」しかしこのつるの物語には主題の山が2つあ…」の「全体性」の問題、すなわち「常に全体としてとりあつかう。」ということはどういうこじようか。それは「常に全文を通じて学習が進められること」ということになりましよう。

してその具体的方法の一つとしては「ある時間には事件を中心に全文を調べ、ある時間には登場の心の動きを中心に全文を調べる。」ということが上げられましよう。

た主題を読みとる場合の形の一つとしては最初に仮説的主題を立て、読みを深めることにより次主題を明確化し、定着させていくという行き方が考えられましよう。

つて岡本先生の計画の場合、最初の時間は「文章を通読し、つるについての知識を整理する」とように「知識的」方向へもつていくよりも、最初の読後の印象を大切にし、その感動の原因を明にしていく、という方向にもつていつた方がよかつたかも知れません。

うすると、この指導実践は仮説的主題をたしかめ、定着するための指導という段階になるわけで、いう段階の指導とみるとき、これは比類の少ないすぐれた実践として浮かび上つてくるでありましよう。

なお、「おわりに」の(5)において岡本先生は「現実の問題として、主題をとらえることのできない児童の扱いについてどう指導の手をさしのべていつたらよいのか。」という問題を提出されていますが、それには次のような方法が一つの参考になるかと思われます。

最も低い段階では、あらかじめ黒板にいくつかの主題らしきものを板書しておいて、それを読ませてから本文を読ませ、その中から選び出させる方法が考えられます。この場合は他と比較してなぜそれが正しいかを文に即して具体的に考えさせる必要があります。

それより進んだ段階では、まず本文を読んでめいめいに主題をつかませ、別に示す正しい主題と比較し、さらに文章を読んで確認させるのもよいでしょう。

あるいはまた、めいめいに読みとつた主題を発表させ、その中から適当なものをいくつか板書し、それを手がかりとしてさらに本文を読ませて正しいものをつかませるのもよいと思います。

また手がかりを他から求めるだけでなく、自分からも求めさせるように、一度つかんだ主題をノートさせ、さらに本文を読んでそれが正しいかどうかを確かめ訂正をくりかえさせるのもよいと思います。

それから次のような順序をたどつて主題に到達させるのも一つの方法でしよう。

(1)全体の構想を調べる。(2)その各段落に見出しをつけさせる。(3)それを整理して「すじ」の発展を読みとらせる。(4)全体を要約してみる。(5)主題を考え整理する。

この外にまだいろいろ考えられると思いますが、いずれにしてもこんな方法を参考にして工夫していけば道がひらけてくるかと思いますので、この程度にとどめます。